

普及活動情勢報告（令和8年月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

ミディトマトの栽培を振り返る

～JA中村支所ミディトマト反省会～



7月17日、JA中村集出荷場でミディトマト反省会が開催され、生産者7名、関係機関4名が参加しました。

会では、JAから令和6園芸年度販売実績の報告がありました。農業改良普及課からは、令和6年度の栽培状況、マルハナバチの使い方、生育調査の結果とバランスシート及び次年度の計画について説明しました。生産者からは、「2・4月の日照時間が少なかったことで収量が少なくなったのか」「マルハナバチには花粉が大事なことを知った」などの声が聞かれました。

今後も増収に向けてJAと連携し、支援を行っていきます。

幡多地域での農福連携の取組事例を紹介

～幡多地域農福連携協議会～



7月18日、中村合同庁舎会議室で、幡多地域農福連携協議会を開催し、生産者を含む関係者25名が参加しました。

会では、幡多地域で取り組まれている農福連携の事例「ユズの収穫作業」と「イチゴの箱折り作業」について、生産者に発表してもらった後、2グループに分かれ、意見交換会を行いました。

参加者からは、雇用にあたっての時間や賃金、労働環境などについて多くの質問が出て活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は事務局として、令和6年度の協議会における活動計画の説明と会議の運営を行いました。

今後も農福連携のマッチングに向け、関係機関と連携し支援を行っていきます。

次園芸年度に向けて！

～JA高知県三崎出張所園芸部通常総会～



7月30日、土佐清水市でJA高知県三崎出張所園芸部通常総会が開催され、生産者11名、関係機関5名、農薬メーカー2名が参加しました。

農業改良普及課からは、促成キュウリの栽培方法の違いによる収量性や作業性の違いについて、園芸用ハウス等リノベーション事業、農福連携の取り組みについて説明を行いました。

生産者からは、「完全更新栽培のメリットとデメリットがよくわかった」「事業の内容について詳しく聞きたい」等の意見がありました。

今後も関係機関と連携しながら、園芸部のさらなる発展に向けて支援していきます。

みんなで40t/10aを達成するために！

～黒潮町キュウリ若手勉強会～



7月31日、黒潮町で若手生産者のキュウリ勉強会が開催され、生産者14名、関係機関4名が参加しました。

会では、農業改良普及課から前作で幡多管内トップの収量を上げている生産者3名の収量、環境、生育データを比較し、栽培管理の特徴について説明し、特に重要となる栽培初期の管理方法について提案を行いました。

その後、参加者間で栽培に関する意見交換を行い、「曇天時の換気方法は？」「菌核病の対策はどうしているか？」など多く質問が出され、とても有意義な会となりました。

今後も黒潮町若手キュウリ生産者が目標収量を達成できるよう支援を強化していきます。

新規就農者の1年間を振り返ろう！ ～四万十市新規就農者就農状況確認面談～



7月26日～8月2日にかけて、新規就農者支援チーム(四万十市、JA、農業改良普及課職員)は、四万十市の新規就農者9名に対し就農状況確認面談を実施し、昨年の収量や所得の確認、課題の掘り起こしを行いました。

面談の中で、経営が安定していない新規就農者は病虫害発生やかん水量、作業スケジュールの遅れ等の様々な課題が明らかとなり、新規就農者支援チームが具体的な対策を指導することで、次作の収量向上に向けた改善策を実施することになりました。

今後も関係機関と連携して、新規就農者の早期経営安定に向けた支援に取り組んでいきます。

スマート農業で文旦産地の活性化！

～すくも文旦育成会～



8月9日、宿毛市宇須々木のは場で農業用ドローン防除実演会がすくも文旦育成会の主催で開催され、生産者11名、関係機関6名が参加しました。

実演会では、果樹専用AIドローン(EAVISION社 EA-30XP)による液肥の散布のデモフライトを行いました。

農業改良普及課からは、各種ドローンの情報提供をしました。

参加者からは、「高低差のあるほ場でのドローン操縦の注意点は？」「導入コストやメンテナンスは？」「バッテリーと作業面積は？」など、多くの質問が出ました。

今後も関係機関と連携して、ドローンの導入によるスマート農業の推進に取り組んでいきます。